

木知原の今昔!

60号:25・3・31

ふる里のあゆみ一覧

□ 戸田殿様から拝領の鉄瓶 (つまみ上下に家紋)


- ふる里の貴重な資料を紹介したいと始めた「木知原の今昔」も最終号となりました。
- 最終号では今までとり上げた事象を年表スタイルにまとめたいと挑戦しましたが、分野が多岐に渡っておりなかなかスッキリとはいきませんでした。
- 歴史年表ではなく「木知原の歩みあれこれ一覧」といった感覚で、今一度ふる里をふり返る参考にでもなれば有難いです。誤記も多々ありましようが宜しく。
- 但し、挿入イラストは当時の“外伝ニュース? :遊び心!”で木知原との関わりはなし。採集

年代 (西暦)	時代・年号	出来事	雑感
2~3世紀	弥生時代	<p>□ 弥生時代(採収から稲作・集団・定住生活時代)</p> <p>☞ 木知原には「横穴式住居跡(公民館南斜面)」が残されていたことから弥生時代以前から人が暮らしていた。 《山河の恵みと稲作に適した洞(沢)が多い地勢》</p>	
6世紀中頃	古墳時代	<p>□ 大和朝廷(朝廷「国造」の支配を受けていた)</p> <p>☞ 「日本書紀」↖三野之國「本巢国造」と有</p> <p>☞ 「濃飛兩國通」↖502年美の國「美濃国造」と有</p>	 <p>・支配とは「納税」すること 人は税のために生きる 貧しきらし? 木知原も。</p>
6世紀末 ~ 8世紀初	飛鳥時代	<p>□ 飛鳥時代(推古天皇・聖徳太子の時代)</p> <p>☞ 「大日本地名辞書」↖木知原は「本巢国」と有</p> <p>・「租庸調」を中心とした税が重くのしかかった頃</p>	<p>・地方の豪族に、国造・県主の称号を与えて統治を始めた時代</p>
8世紀	奈良時代	<p>□ 奈良時代(奈良に都の85年間)</p> <p>☞ 「倭名類聚(るいじゅう)抄」↖毛止須(もとす)は八郷が存在</p> <p>☞ 「新撰美濃史」↖本巢郡の四至が記録</p> <p>・暮らしは「貧窮問答歌」並みで「大仏造営税」までも…</p>	 <p>祖先は大仏造立・改修税を何度も納めた</p>
8世紀末 ~ 14世紀中	平安時代	<p>□ 平安時代(京遷都~鎌倉~建武新政まで約550年間)</p> <p>☞ 平安:源氏の流れくむ子孫が「美濃源氏」と名乗り支配</p> <p>☞ 鎌倉:大内惟基・北条一門が「美濃守護」に任じられ支配</p> <p>☞ 室町:美濃源氏の流れをくむ土岐氏が「守護」に任じられ室町時代を迎える</p> <p>・土岐氏は斎藤道三に追放される迄の250年間美濃地方を統治し木知原はその支配下にあった。</p>	<p>・くらはは25号に記述 奈良が「貧窮問答歌」ならこの頃は「泣く子と地頭には勝てぬ」でしょう。</p> <p>・地域の情報や文化(特に貴族文化)が地方に広まり始めた事は変化の一つ</p>
以降は木知原の出来事や関わりのある事象を私好みで記載			
1336	室町	延元 元年	<p>☞ 北朝に属し南朝の根尾・長瀬と対立続く</p> <p>・土岐氏(北朝)</p>
1406		応永 13年	<p>☞ 土岐氏の支配に抵抗する</p> <p>・応永13年(1406)~文安4年(1447)の約40年間京都藤原四条家の分家である鷲尾家の所領となった。(大友家文書)</p> <p>・西美濃地区に本願寺教団の拝領地があったことから結びつきを深めたようである。(詳細は不明)</p>

1427	戦国時代の世	応永 34年	☞「田社神社」建立(一時期外山郷総社)	1467 ↓ 1573 室町 ↓ 1603 1467年: 「応仁の乱」頃から 土岐・斎藤・織田、領主の安藤・稲葉が複雑に絡み合う争いが続き、村人が翻弄された戦国の世が江戸まで続いた。
1525		大永 5年	☞京都勸修寺所領(勸修寺文書・納税記録)	
1530		享禄 3年	☞根尾川大洪水(藪村が流れ、藪川が誕生) ・6月3日～8日にかけて連日の大雨 ・「八日の宮」由来の大水である。	
1567		永禄 10年	☞織田信長・斎藤氏を滅ぼし岐阜に進出 ☞木知原は北方城主(安藤)の支配続く	
1580	安土桃山	天正 8年	☞北方城主が信長に追放される。 ☞木知原は曾根城主(稲葉・西尾)支配が江戸時代まで続く	・1582年:本能寺の変
1590		天正18年	☞根尾川大洪水 ・木知原村の「石」需要高まる～昭和30年	・江戸幕府直轄地となるも 悪代官もいたようである
1603	江戸	慶長 8年	☞江戸幕府開闢 ☞天領となる(30年間3代官による支配)	戸田氏は11代続いた。 木知原は200年間領主が替わらない珍しい村であった。
1635		明正 12年	☞戸田氏鉄大垣城入封(初代大垣城主) ☞外山郷と根尾郷が直接支配地となる ・根尾川の水利権得られる	
1644		寛永21年	☞「上岩崎神明」祀られる(井水事業安全)	
1650	慶安 3年	☞根尾川・藪川大洪水 ・上岩崎神明流失?	・谷汲山大橋工事で発見	
1661	江戸	寛文 元年	☞長瀬村と秣場の件で郷境争論～1673年	・一応決着を見る
1677		延宝 5年	☞木知原村「高辻絵図」画かれる	・大規模検地行われる
1679		〃 7年	☞日当に代官所設置(3代戸田氏西)	・税徴収と郷境監視が目的
1681		天和 元年	☞上岩崎に最初の「渡船場」開業 ・往來人増え村が賑やかなになる	・八百屋お七の大火(82)
1688		元禄 元年	☞田社神社焼失(全焼)	・4社共に立派なこけら葺きの記録有
1689		〃 2年	☞田社神社再建	・吉良邸討ち入り(1702)
1722		享保 7年	☞「道標」立てられる「右ぎふ・左せきみち」	
1745		延享 2年	☞「地藏尊」祀られる(村の守護神・道祖神) ☞田社神社「燈籠」祀られる(日月燈籠)	
1748		寛延 元年	☞戸田氏英藩主(6代)来村(大庄屋任命)	・浅間山噴火(1783)
1789		寛政 元年	☞戸田氏教藩主(7代)来村(大庄屋任命)	・大庄屋は市長・警察署長・裁判長を一人で兼ねる
1798	〃 10年	☞神海境に「地藏尊」祀られる(渡船場付近)	・他郷有志の寄進	
1817	文化 14年	☞根尾川護岸工事完成	・現耕作地勢が出来る	
1858	安政 5年	☞郷境争論再燃(西之河原)	・ペリー来航(1853) ・再度決着(代官所裁定)	

1864		元治元年	天狗党木知原を通る(岩崎渡船場渡る)	・村中大混乱に陥る
1873		明治 6年	木知原学校(有覚校)開校 庄屋の一部屋を借りて教室とする (寺子屋方式と思うが詳細は不明)	・明治5年 木知原村 戸数65戸、人口 301 人
1875	明	" 8年	下岩崎に「渡船場」開業(下岩崎-下長瀬)	・2つ目の渡船場
			神海小学校開校(有覚校は閉校)	・神海金輪寺が学校
1877		" 10年	神海小学校が長瀬小学校に合併	・木知原は渡し船で通学
1877		" 10年	黒藤に「渡船場」開業(～赤石村)	・3つ目の渡船場
1779		" 12年	長瀬小学校と分離し神海小学校再開	・再度金輪寺が学校
1782		" 15年	神海小学校新築(新井水湖脇)	・長谷地区山越え通学
1887		" 20年	「地藏尊」寄進(中屋敷:名知一馬氏)	・現在長谷川橋脇
1888	治	" 21年	町村制施行「大字木知原」となる)	・大字・小字名を統一
1889		" 22年	「馬頭観音像」祀られる (村の8割の家で牛馬飼育)	・村名に「木知洞」と刻印
1891		" 24年	濃尾大地震起きる 木知原の被害:家屋全壊16戸・死者1名 ・山崩れ一町歩	・根尾「水鳥の断層」できる
1895		" 28年	「新道」整備される(根尾街道・県道となる)	・道幅2間(3.6m)と統一
	「道標」(下岩崎山ノ神前)立てられる		・二つ目の渡船場案内	
	「地藏尊」旧道から現箇所(新道)へ移動		・子どもが運ぶ(お駄賃で)	
1907		" 40年頃	長谷山之内・竹原・竹浦木知原村へ併合	・他郷の飛び地であった
1909		" 42年	木遣り節地づき唄としてデビュー ・木知原バージョン木遣り節(もちつり唄) が随時出来上がる	・吾作家の地づきで初披露 評判が広がり他郷からの 依頼を受けるようになった
1910		" 43年	万代橋架設橋完成(渡賃・2 銭)	・村中の人の流れ減少
1915		(5年頃)	「吊橋」架かる(木知原一下長瀬)	・渡船場閉鎖(3ヶ所)
1921	大 正	" 10年	村に電燈がつく	・金原に村営発電所完成
1922		" 12年頃	マンガン採掘始まる	・横山・山ノ神の2ヶ所
1924		" 13年	「万代橋」永久橋に改修 (祝賀行事として相撲大会開催)	・村内の人通りは益々減少
1925		" 14年	ラジオ放送始まる	
1927	昭和	昭和2年	名鉄電車開通(黒野～谷汲間)	・谷汲線開通前は「美濃北方駅」まで歩いて電車に乗っていた (通勤者は毎日ですよ!)
			この頃神社の階段や表参道整備される	

1930		〃 5年	☐岐阜乗り合いバス営業始まる	・根尾自動車・岐乗自(株)
1933		〃 8年	🔵「木知原ダム」完成	
1936		〃 11年	☐神海小学校移築(下新田・ゲートボール場)	(16年～国民学校)
1947		〃 22年	☐岐阜乗り合いバス運休と再開 ・ガソリン不足で18年から運休:再開後は木炭車(マキ燃料バス)。出力が落ちると車掌(女性)が手回し送風機を回していた	♥神海の坂で送風機を回していた車掌を乗せなくて走り出した珍事に子供ながら大笑い。失礼!
1949		〃 24年	🔵マンガン山閉山(戦後は採掘量僅か)	・質が悪く採算が合わない
1950		〃 25年	☐「電話サービス」始まる	・村でラジオ店に一台
1952		〃 27年	☐テレビ放送始まる	♥ラジオ店に集まって視聴
1955		〃 30年	🔵谷汲山開帳もちつき奉納(沿道大賑わい)	
1956		〃 31年	☐「樽見線」開通(日本国有鉄道)	
1957		〃 32年	🔵本巣村と合併(外山村が本巣村となる) ☐昭和天皇谷汲村植樹祭(万代橋通過)	・村人総出(学校は臨休)
1958	昭	〃 33年	🔵樽見線「木知原駅」開設(もちつきで祝う)	30年代は村の文明開化 ・木知原駅開業までは鉄橋を渡り谷汲口から乗車。 ・電車・ジーゼル・バス利用 ・上水道は暮らしを一変(水道管は村人が手掘り)「風呂水くみ」が死語? ・中学生自転車通学等々木知原の大きな変化
1959		〃 34年	☐万代橋拡幅改修工事	
1960	和	〃 35年	🔵本巣町誕生(町制施行)	
			🔵外山中学校新築(神海上新田:金原合併) 🔵木知原南部簡易水道竣工	
1963		〃 38年	☐有線放送開始(スピーカーから村田英雄・三波春夫の演歌が毎日♥)	
1964		〃 39年	🔵外山中・本巣中学校合併(本巣中学校) 🔵長谷地区簡易水道竣工	
1967		〃 42年	🔵外山小学校開校(神海・金原小学校合併) 🔵公民館改築(プール脇から上の段へ)	・旧外山中校舎使用
1971		〃 46年	☐木知原バイパス道路開通(国道157号)	
1973		〃 48年	☐万代橋架け替え改修工事(現在の橋)	
1977		〃 52年	🔵田社神社本殿改築	・もちつきで祝う
1978		〃 53年	🔵長谷川大改修	・北カントリーオープン
			🔵長谷道路拡幅	

1984		〃 59年	📺 樽見鉄道第三セクターによる営業開始	
1995	平成	平成 7年	📺 本巣トンネル開通	
1998		〃 10年	📺 谷汲山大橋開通	・木知原神宮碑発見
2009		〃 21年	📺 田社神社 脇社改築(八幡神社・天神神社)	・もちつりで祝う



※お一人お一人の人生と重ね合わせてご覧になれば若返りますよ！ 誤りはご容赦下さい。



あとがき

ありがとうございました。

😊 柄にもなく“あとがき”を・・・

📖 思いがけなく出会えた大量の古文書を是非皆さんに紹介したいと始めた「木知原の今昔」も前述のとおり今号をもって〆とさせていただきます。

♥ “ふるさと”という言葉はシニア層にとって望郷の念を抱かせる快い響きがあり日本人の好きな言葉と思います。「木知原の今昔」がふるさとへの心のときめきに少しでも役立てばとの思いで発信してきましたが如何でしたか。

♥ 資料はどれも初公開の一級品ばかりですが読解の至らなさを反省しています。後の後悔先に立たず”ですが…。

♥ 今後は今昔にこだわることなく楽しい情報を「時無し発行」出来ればと思っています。

♥ 最後に、資料提供していただいた方や体験・昔話を聞かせて頂いた方々に心から感謝申し上げ「木知原今昔」の幕とします。

本当にありがとうございました

2025年3月

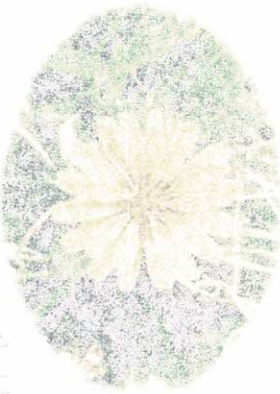
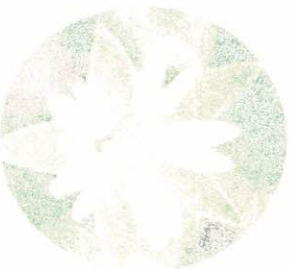


😊 周囲に10種類の花を挿入しました。木知原の至る所でよく見かける草花ですが名前まではという方も多いのではないのでしょうか！ 勿論私もその一人ですが！ 何種類ご存じですか？ 楽しんでください。

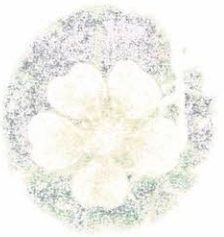
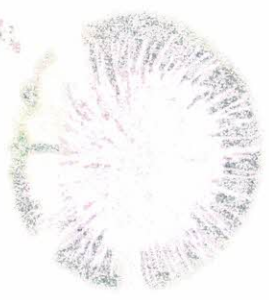
春のノアザミ・ジシバリ・ハコベ・センニンソウ・サギゴケ・マンネングサ・ルコーソウ・アゼカクシ・グンバイソウ・ヘビイチゴ

	植物種 青森県上三川町三津島温泉町	種名	4801
	抽出 solvent 水	抽出地 大山温泉山	5001
	抽出時期 1999年11月 抽出者 岩淵博樹 伴野直樹	年 月 日	2001 11 20
Genus (C.S.I.D.)		種	2001
			9008

2001年11月20日採集した植物。上三川町温泉地区の三津島温泉町三津島温泉山にて採集された植物。抽出地は三津島温泉山。



4801 1999年11月20日採集



4801 1999年11月20日採集

この植物は、青森県上三川町三津島温泉町三津島温泉山にて採集された植物。抽出地は三津島温泉山。抽出時期は1999年11月20日。抽出者は岩淵博樹と伴野直樹。この植物は、抽出地である三津島温泉山に生息している。抽出地は三津島温泉山。抽出時期は1999年11月20日。抽出者は岩淵博樹と伴野直樹。この植物は、抽出地である三津島温泉山に生息している。抽出地は三津島温泉山。抽出時期は1999年11月20日。抽出者は岩淵博樹と伴野直樹。